

英文法が完璧に身につく本

第一章 文型・動詞の語法

- レクチャー1 自動詞と他動詞。
- レクチャー2 「自動詞と間違えやすい他動詞」「他動詞と間違えやすい自動詞」。
- (1)「自動詞と間違えやすい他動詞」。
 - (2)「他動詞と間違えやすい自動詞」。
- レクチャー3 5つの文型とそれぞれの文型によく使われる動詞。
- (1)「SVC」を作る動詞。
 - ①知覚動詞
 - ②状態や状態の継続、変化を表す動詞
 - ③「Cだと判る、(結果として)Cとなる」型
 - ④慣用的なSVC構文
 - (2)「SV₀O₂」。
 - ①O₁とO₂の入れ換え
 - ②「SV₀O₂」で注意すべき動詞
 - (3)「SVOC」の「C」のバリエーション。
- レクチャー4 語法を間違えやすい動詞。
- (1)「S+Vt+O(人)+that節」型の伝達動詞。
 - (2)「人」を目的語に取ることができない伝達動詞。
 - (3)「S+V+O+to do[願]~」の型をとりそうでとれない他動詞。
C
 - (4)ask の語法。
 - (5)hope の語法。
 - (6)help の語法。
 - (7)suggest の語法。
 - (8)一般動詞の do の(意外な)語法。
 - (9)4つの「言う」。speak, talk, say, tell。
 - (10)目的語にとる語句が限定されている他動詞。
 - ①「参加する」
 - ②「勝つ」
 - ③「盗む(steal)」と「奪う(rob)」

④「感謝する(appreciate と thank)」

レクチャー5

意味や活用などが紛らわしい動詞。

(1)活用の一部が同じなため、間違えやすいもの。

①fall / fell

②lie / lay / lie

③find / found

④see / saw

⑤wind / wound

⑥bind / bound

(2)形が似た動詞と活用を混同しやすいもの。

①fly / flow / frown

②welcome / overcome

③rise / raise / arise / arouse / rouse

④see / saw / sew / sow

(3)意味によって活用が違うもの。

①fly

②hang

③lie

④shine

(4)意味の違いや自動詞、他動詞の区別が狙われるもの。

①sit / seat

②lie / lay / lie

③rise / raise

④carry / bring / take / fetch

⑤remember / remind

⑥surprise / marvel

⑦put on / wear

⑧insist on / persist in

⑨wake / awake / awaken

⑩doubt / suspect

レクチャー6

自動詞と他動詞で意味が変化するもの。

(1)yield

(2)submit

(3)allow

(4)attend

(5)run

(6)stand

(7)associate

(8)prove

(9)turn out

(10)become

(11)pay

(12)answer

(13)add

(14)enter

レクチャー7 使役動詞のまとめ。

(1)make と let。

(2)have と get。

レクチャー8 意外な意味になる動詞。

(1)last

(2)long

(3)face

(4)pay

(5)work

(6)share

(7)matter

(8)meet

(9)run

(10)sell

(11)become

(12)miss

(13)cover

(14)fail

(15)survive

(16)make

レクチャー9 「動詞＋名詞」の(決まり文句的)頻出表現。

レクチャー10 後ろの形で意味が見えてくる動詞のパターン。

(1)「動詞＋A with B」型。

(2)「動詞＋A for B」型。

(3)「動詞＋A of B」型。

(4)「動詞＋A from B」型。

(5)「動詞＋A on B」型。

(6)「動詞＋A into B」型。

(7)「動詞＋A to B」型。

- (8)「動詞 + A as B」型。
- (9)「動詞 + A off B」型。

特別講義

第二章 時制

- レクチャー1 現在時制と現在進行形。
 - (1)現在時制の表す意味。
 - (2)現在進行形の表す意味。
- レクチャー2 進行形にできない動詞とは? 「状態動詞」と「動作動詞」の見極め法。
- レクチャー3 進行形の意外な用法。
- レクチャー4 過去進行形と未来進行形。
 - (1)過去進行形。
 - (2)未来進行形。
- レクチャー5 未来表現。
 - (1)英語には「未来時制」という時制はない。
 - (2)未来の内容を表す様々な表現。
 - (3) will の表す未来。
 - (4) be going to が表す未来。
 - (5)現在進行形(be+doing~)の表す未来。
 - (6)現在時制の表す未来。
- レクチャー6 時・条件の副詞節中の時制のポイント。
- レクチャー7 完了形。
 - (1)現在完了。
 - ①現在完了とは
 - ②現在完了の意味
 - (2)過去完了(had+p.p. ~)。
 - ①過去完了の意味
 - ②大過去
 - (3)未来完了(will+have+p.p. ~)。
 - (4)現在完了と共に用いてはならない語句がある。
 - ①明確に過去の内容を表わす語句
 - ②疑問詞のwhen, what time 「いつ」
 - ③just now 「ついさっき」

(5) 「have been to A」 と 「 have gone to A」 。

(6) 「現在完了進行形(have+been+~ing)」 。

レクチャー 8 「父が死んで3年になります」型の書き換え。

レクチャー 9 過去形にすべきか、過去完了形にすべきかについての注意事項。

レクチャー 10 時制に関するその他の重要関連項目。

(1)時制の一致とその例外。

(2)時に関する重要構文。

第三章 助動詞・態

助動詞

レクチャー 1 助動詞に関する基礎知識。

(1)助動詞とは。

(2)助動詞の基本的な特徴。

レクチャー 2 may の用法。

(1)「~するかもしれない」 [可能性・推量]

(2)「~できる(かもしれない)」「~してもさしつかえない[してもよ
かろう]」 [可能・容認]

(3)「譲歩」の may。

(4)「~してもよい」 [許可]

(5)「~でありますように」 [祈願]

(6)may を用いたイディオム。

①may well do[原形]~

②may[might] as well do[原形]~ (as do[原形]…)

③so that S may[will/ can] V[原形]~

レクチャー 3 can の用法。

(1)「~できる」 [能力]

(2)「~してもよい」 [許可]

(3)「~し得る/であり得る」 [可能性・推量]

(4)cannot で「~する[である]はずがない」 [否定的断定]

(5)can を用いたイディオム。

①cannot do[原形]~ too…

=cannot do[原形]~ enough

②cannot help doing~

=cannot but do[原形]~

レクチャー4 could の用法。

- (1) 「～できた」 [能力・可能]
- (2) 「～しようと思えばできる」 [仮定の能力]
- (3) 「～でありうる」 [可能性・推量]
- (4) 疑問文で「一体全体どうして～か」
[強い疑い・否定的な推量(可能性)]
- (5) Could I do[原形]～? で「～してもよいでしょうか」 [許可]
- (6) Could you do[原形]～? で「～していただけませんか」 [依頼・要請]
- (7) 「could have+p.p.～」。

レクチャー5 must の用法。

- (1) 「～しなければならない」 [義務]
- (2) 「～する [である]に違いない」 [肯定的断定]
- (3) must not do[原形]～ 「～してはならない」 [禁止]

レクチャー6 should[=ought to] の用法。

- (1) 「～すべきだ」 [義務]
- (2) 「～するはずだ」 [(現在時における)可能性・推量]
- (3) should の注意すべき3用法。

レクチャー7 need の用法。

レクチャー8 will の用法。

- (1) 「～だろう」 [(現時点での)予測・推量]
- (2) 「～するつもりだ」 [(現時点での)強い意志・固執]
- (3) 「～するものだ」 [現在の習慣[習性]・一般的傾向]
- (4) Will you do[原形]～? 「～しませんか」 [勧誘・依頼]

レクチャー9 would の用法。

- (1) 「～するだろう」「～しよう」
[時制の一致によって生じる would]
- (2) 「(どうしても)～しようとした」 [過去の強い意志]
- (3) 「(昔)よく～したものだ」 [過去の不規則的習慣]
《重要! 「used to do[原形]～」と「would do[原形]～」の違い》
- (4) 「～するだろうに」 [仮定法の would]
- (5) 仮定法の would が弱まって意味が転じた would。

レクチャー10 その他の助動詞。

- (1) had better do[原形]～
- (2) would rather[sooner] do[原形]～ (than do[原形]…)
- (3) How dare S+V～?
- (4) Shall I do[原形]～?

(5) Shall we do[原形]～?

(6) 「強調」の助動詞 do

レクチャー 1 1 「not」の位置に注意すべき3つの助動詞。

(1) 「ought to do[原形]～」

(2) 「had better do[原形]～」

(3) 「would rather do[原形]～」

レクチャー 1 2 「助動詞+have+p.p.～」。

(1) must+ have+p.p.～

(2) may[might]+ have+p.p.～

(3) can't+ have+p.p.～

(4) should+ have+p.p.～

ought to+ have+p.p.～

had better+ have+p.p.～

(5) need not+ have+p.p.～

(6) would like to+ have+p.p.～

態

レクチャー 1 受動態の訳と作り方。

(1) 第三文型。

(2) 第四文型。

(3) 第五文型。

(4) その他。

レクチャー 2 by以外の前置詞を用いる受動態。

(1) A is known to[as/for]

(2) be interested in A

(3) be surprised[astonished] at A

(4) be satisfied with A

(5) be covered with A

(6) be crowded with A

(7) be engaged in A

(8) be occupied with[in] A

(9) be caught in A

(10) be absorbed in A

(11) be acquainted with

(12) be killed in A

(13) be filled with A

(14) be convinced of A

- レクチャー3 群動詞[句動詞]の受動態。
 (1)群動詞[句動詞]とは。
 (2)群動詞[句動詞]の受動態。
 (3)自動詞+前置詞。
 (4)他動詞+名詞+前置詞。
- レクチャー4 知覚動詞・使役動詞の受動態。
 (1)知覚動詞が作るSVOCの受動態。
 (2)使役動詞の make が作るSVOCの受動態。
- レクチャー5 進行形の受動態。
- レクチャー6 その他の受動態を用いた慣用表現。
 (1)A(製品) be made of B(材料)
 (2)A(製品) be made from B(原料)
 (3)A(原材料) be made into B(製品)
 (4)A(意見など) be based on B(裏など)
 (5)be opposed to A
 (6)be supposed to do[原形]～
 (7)be scheduled to do[原形]～
- レクチャー7 get [become]+p.p.～ の受動態。
- レクチャー8 使役動詞の have[get] を用いた受動表現。
- レクチャー9 It is said[thought/believed/reported...] that S+V～ 型の受動態。
- レクチャー10 受動態とそれを表す動詞の形のまとめ。

第四章 準動詞(1) 動名詞

《 準動詞とはなにか 》

- レクチャー1 動名詞とは。
- レクチャー2 他動詞の目的語に関する不定詞と動名詞の注意事項。
 (1)不定詞と動名詞の対照的な特徴。
 (2)不定詞だけを目的語にとる他動詞。
 (3)動名詞だけを目的語にとる他動詞。
 (4)目的語に不定詞をとった場合と動名詞をとった場合で意味が異なる他動詞。
 ①不定詞が未来を表わし、動名詞が過去を表わすもの。
 ②不定詞が能動(～する)を表わし、動名詞が受身(～される)を表わすもの

③その他

(5)目的語に不定詞、動名詞どちらをとってもあまり意味が変わらないもの

レクチャー3 動名詞の意味上の主語。

- (1)意味上の主語を明示する必要がない場合。
- (2)意味上の主語を明示する必要がある場合。

レクチャー4 完了動名詞(having+p.p. ~)の用法。

レクチャー5 「to+doing~」の慣用表現。

- ①be[get] used to doing~
- ②look forward to doing~
- ③what do you say to doing~?
- ④devote[dedicate] oneself to doing~
- ⑤with a view to doing~
- ⑥object to doing~
- ⑦when it comes to doing~

レクチャー6 動名詞を用いた慣用表現。

- (1)There is no doing~
- (2)It is no use[good] doing~
- (3)never[cannot] ~without doing...
- (4)of one's own doing
- (5)A is worth doing~
- (6)spend A(金・時間) (in) doing~
- (7)feel like doing~
- (8)in doing~
- (9)on doing~
- (10)be busy (in) doing~
- (11)go doing~
- (12)can not help doing~
- (13)be on the point of doing~
- (14)prevent A from doing~
- (15)How about doing~?
- (16)It goes without saying that~
- (17)be in the habit of doing~
- (18)make a habit[rule/ point/ practice] of doing~
- (19)have trouble[difficulty] (in) doing~

第五章 準動詞(2) 不定詞

- レクチャー1 不定詞についての基礎知識。
(1)不定詞とは。
(2)不定詞の3用法。
- レクチャー2 不定詞の名詞用法。
(1)不定詞の名詞用法とは。
(2)「疑問詞+to do[動]～」。
- レクチャー3 不定詞の形容詞用法。
(1)不定詞の形容詞用法とは。
(2)修飾される名詞と不定詞との関係。
(3)形容詞用法の不定詞で最も狙われやすいタイプの問題。
- レクチャー4 不定詞の副詞用法。
(1)不定詞の副詞用法とは。
(2)副詞用法の不定詞の詳しい見極め方法。
(3) tough構文(直前の形容詞を限定する不定詞)。
(4)副詞用法の不定詞を用いた慣用表現。
①～ enough to do[動]…
=so ~ as to do[動]…
②too ~ to do[動]…
(5)独立不定詞。
①to say the least (of it)
②to begin[start] with
③needless to say, S+V～
④to tell[speak] (you) the truth
⑤to be frank with you
⑥strange to say
⑦not to mention A
⑧not to say A
⑨to be brief
⑩to sum up
⑪to say nothing of A
=not to speak of A
=not to mention A
⑫to make a long story short
⑬to do A justice

- ⑭to make matters worse
- ⑮to add to A
- ⑯to conclude
- ⑰to put it in another way
- ⑱to be accurate[exact]

- レクチャー5 不定詞の意味上の主語。
 (1)意味上の主語を明示する必要がない場合。
 (2)意味上の主語を明示する必要がある場合。
- レクチャー6 完了不定詞(to have+p.p.～)の用法。
- レクチャー7 代不定詞の用法。
- レクチャー8 不定詞の否定。
 (1)一般の不定詞の否定の表し方。
 (2)「目的」を表す不定詞の否定(つまり「～しないように」)の表し方。
- レクチャー9 be to 構文。
 (1)be to構文の見極め法。
 (2)be to構文の意味。
 《もう一步深く! 「be to 構文」》
- レクチャー10 不定詞を用いたその他の頻出構文。
 (1) It is 形容詞 of A(人) to do[原形]～.
 (2) S have only to do[原形]～.
 =All S have to do is (to) do[原形]～.
 (3) have the 抽象名詞 to do[原形]～.

第六章 準動詞(3) 分詞

- レクチャー1 分詞についての基礎知識。
- レクチャー2 分詞の用法[働き]。
 (1)分詞の動詞的な用法[働き]。
 (2)分詞の形容詞的な用法[働き]。
 (3)文法問題における分詞の選び方の基本。
 ①分詞が名詞を直前直後から修飾する場合
 ②分詞が「SVC」や「SVOC」の「C」になる場合
- レクチャー3 感情・被害を表す動詞の分詞形に注意。
 (1)感情を表す動詞とその分詞形。
 (2)被害を表す動詞とその分詞形。

レクチャー4 分詞構文(分詞の副詞的用法)。

- (1)分詞構文とは。
- (2)基本的な分詞構文の作り方。
- (3)分詞構文における注意事項。
 - ①否定文を分詞構文にするには
 - ②前半と後半の節の動詞の時制が異なっている文を分詞構文にするには
 - ③前半と後半で主語が異なっている英文を分詞構文にするには
 - ④「There is[are] 構文」を分詞構文にするには
 - ⑤動詞がbe動詞であるような英文を分詞構文にするには
 - ⑥分詞構文の分詞句は後に置かれることもある
 - ⑦分詞構文の訳し方
- (4) with O C で「OがCの状態で」。

レクチャー5 間違えやすい分詞構文 (特に過去分詞で始まる分詞構文等)。

レクチャー6 慣用的な分詞構文。

- (1)Strictly[Generally/Frankly/Roughly/historically] speaking,
- (2)Judging from A,
- (3)Granting[Granted/Admitting] (that) S+V~,
- (4)Assuming (that) S+V~,
- (5)Considering (that) S+V~,
- (6)Talking[Speaking] of A,
- (7)Taking A into consideration,
=Considering A
=A considered
- (8)Weather permitting,
- (9)Provided[Providing] (that) S+V~
- (10)Supposing (that) S+V~
- (11)Seeing (that) S+V~
- (12)Such being the case,
- (13)Night coming on,
- (14)Given (that) S+V~

レクチャー7 分詞形容詞について。

《補足：準動詞の働きのまとめ》

第七章 仮定法

レクチャー1 仮定法とその特徴。

(1) 仮定法とは。

(2) 仮定法の最も大きな特徴。

《仮定法はなぜ「現在」のことを述べるのに「過去形」を使うのか?》

レクチャー2 仮定法過去。

レクチャー3 仮定法過去完了。

レクチャー4 仮定法未来。

(1) 「If+should」型の公式。

(2) 「if+were[was] to」型の公式。

(3) 「If+should」型と「If+were[was] to」型の用法・意味的な違い。

レクチャー5 公式の整理。

レクチャー6 「if の省略」に関して。

(1) 基本ルール。

(2) 注意すべきポイント。

レクチャー7 仮定法を用いた慣用表現。

(1) but for A

(2) ㊟ wish S+V【仮定法】～

(3) as if【though】 S+V【仮定法】～

(4) would rather S+V【仮定法】～

(5) It is (high, about) time S+V【仮定法】～

(6) as it were

レクチャー8 仮定法と時制(の一致)。

(1) 「時制の一致」というルール。

(2) 仮定法は「時制の一致の例外」。

レクチャー9 If節のない仮定法。

(1) 「名詞」が if節の代用をしている例。

(2) 「副詞」の otherwise がif節の代用をしている例。

(3) 「不定詞」がif節の代用をしている例。

(4) 「前置詞+名詞」がif節の代用をしている例。

(5) 「(比較級の付いた)名詞句+and S+V【仮定法】～」の名詞(句)部分がif節の代用をしている例。

第八章 関係詞(1)

- レクチャー1 関係代名詞に関する基礎知識。
(1)関係代名詞とは。
(2)代表的な3種類の関係代名詞。
①主格の関係代名詞
②目的格の関係代名詞
③所有格の関係代名詞
- レクチャー2 文法問題における関係代名詞の格の決め方。
(1)主格の関係代名詞。
(2)目的格の関係代名詞。
(3)所有格の関係代名詞。
(4)()S+V V~型(連鎖関係詞節)。
- レクチャー3 関係代名詞の that。
(1)(関係代名詞が)thatでなければならない場合。
①先行詞が「人+人以外」のとき
②先行詞が疑問詞(who や which等)のとき
③関係代名詞の補語格は that になる
(2)thatはカンマや前置詞が直前にあったら使えない。
- レクチャー4 「その屋根の見える家が、スミスさんの家です」が、関係代名詞を用いて2パターンできる理由。
- レクチャー5 関係代名詞の what。
(1)what の基本とその特徴。
(2)whatを用いた慣用表現。
①what we[you, they] call
=what is called
②what S is
③what S was[used to be]
④what S will be
⑤what S should be
=what S ought to be
⑥what S seem to be
⑦what is 比較級
⑧what is more
⑨A is to B what[as] C is to D
⑩what with A and (what with) B

- レクチャー6 関係副詞 (where, when, why, how) 。
- (1)関係副詞とは。
 - (2)4つの関係副詞とその先行詞。
 - (3)関係副詞の先行詞の省略。
 - (4)the way と how。
- レクチャー7 関係副詞関連でよくあるタイプの問題。
《関係代名詞とそれ以外のものの後に続く形の違い》
- レクチャー8 関係副詞のその他の注意点。
- (1)間違えやすいwhereの用法。
 - (2)whenは先行詞と離れて置かれることがある。
 - (3)「This is why～」と「This is how～」。
- レクチャー9 前置詞+関係代名詞。
- (1)前置詞と関係代名詞がワンセットで2文をつなぐ接着剤の働きをすることがある。
 - (2)文法問題としての「前置詞+関係代名詞」。
- レクチャー10 関係代名詞の非制限用法。
- (1)制限用法と非制限用法の意味の違い。
 - (2)関係詞の前にカンマ(,)がついていた場合のポイント。
 - (3)「, 不定代名詞+of+目的格(whom[which])」。
 - (4)「,+関係副詞」。
 - (5)非制限用法(つまりカンマが前についたら)の関係代名詞は、たとえそれが目的格でも省略することはできない。
 - (6)制限用法(カンマなし)と非制限用法(カンマあり)の先行詞の違い。

《まとめ》

第九章 関係詞(2)

- レクチャー1 「what+名詞」と「which+名詞」。
- (1) what や which の後ろの「名詞」の働き。
 - (2)whoseとの違い。
 - (3) what[which] の直後の「(冠詞)名詞」のまとめ。
 - (4)「what+名詞」と「which+名詞」のそれぞれの特徴。
- レクチャー2 関係代名詞の as 。

- (1)先行詞に such や the same、as[副詞as]がつく場合、直後の関係代名詞は as になる。
- (2)主節やその一部を先行詞とする as。
- レクチャー3 前置詞+(関係代名詞の)目的格+to do[原形]～。
- レクチャー4 関係代名詞+ever(whoever/ whomever/ whichever/ whatever等)の用法。
- (1)普通の関係代名詞との違い。
- (2)名詞用法。
- (3)副詞用法。
- (4)よくあるタイプの問題。
- (5)whatever にするか whichever にするかの見極め。
- レクチャー5 関係副詞+ever(whenever/ whenever/ however)の用法。
- (1)wherever 「どこで(へ)～しても(しようとも)」
- (2)whenever 「いつ～しても(しようとも)」
- (3)however。
- (4)「関係代名詞+ever」と「関係副詞+ever」の使い分け方。
- レクチャー6 関係代名詞の二重限定。
- (1)関係代名詞の二重限定とは。
- (2)二重限定(の関係詞節)と、andで結ばれた関係詞節の区別とその違い。

第十章 接続詞

- レクチャー1 等位接続詞と従位接続詞。
- (1)等位接続詞。
- ①等位接続詞とは
- ②等位接続詞の働き
- ③等位接続詞によって結びつけられた両者は、構造的にも等しくなる
- (2)従位接続詞。
- ①従位接続詞とは
- ②従位接続詞の働き
- ③主節は1つの文に1つだけだが、従位節は1つの文にいくつあってもいい
- レクチャー2 that の用法。
- (1)指示代名詞の that。

(2)(従位)接続詞の that。

①名詞節を作る that

②副詞節を作る that

(3)関係代名詞の that。

①関係代名詞の that とは

②関係代名詞のthatか? 接続詞のthatか? その見極め方

(4)強調構文をつくる that。

①強調構文とは

②強調構文か? 仮主語構文か? その見極め方

③注意すべきポイント

(5)その他の that。

①先行詞を明示するthat

②副詞の that

レクチャー3 whether の用法。

(1)whether節がS・O・Cになったり、又は前置詞の後ろに置かれて
いる場合、その whether は「～かどうか」と訳す。

(2)whether節がS・O・Cにならない場合、その whether は「～で
あろうとなかろうと」と訳す。

(3)「～かどうか」となる場合の whether と if の使い分け方。

レクチャー4 接続詞を用いた「時」に関する重要構文。

(1)It will not be long before S+V～.

(2)It was not long before S+V～.

(3)Ⓢ+had not+p.p.～ before[when] S+V[過去形]….

(4)by the time S+V～

(5)every[each] time S+V～

(6)any time S+V～

(7)The first[next/ last] time S+V～

(8)It is not until～that S+V….

レクチャー5 「～までに(は)」と「～まで(は)」の違い。

(1)「～までに(は)」。

(2)「～まで」。

(3)「by(又はby the time)」と「until[till]」の使い分け。

レクチャー6 「理由」を表す意外な接続詞。

(1), for S+V～

(2)now (that) S+V～

(3)seeing (that) S+V～

(4)on the ground(s) (that) S+V～

(5)in that S+V～

レクチャー7 「条件」を表す意外な接続詞。

(1)in case S+V～

(2)suppose[supposing] (that) S+V～

(3)assuming (that) S+V～

(4)on (the) condition (that) S+V～

(5)unless S+V～

(6)providing[provided] (that) S+V～

(7)given (that) S+V～

レクチャー8 in case の用法。

(1)「もし～なら」

(2)「～の場合に備えて、～だといけないので」

(3)[just in case という形で]「万一の用心に、万が一に備えて」

レクチャー9 「as ～ as S+V…」という形で接続詞的に使われるもの。

(1)as[so] often as S+V～ 「Sが～するたびに」

=each time S+V～

(2)as[so] soon as S+V～ 「Sが～するとすぐに」

(3)「as[so] far as」と「as[so] long as」。

①as[so] far as S+V～ 「～に関する限りでは、～について

②as[so] long as S+V～ 言えば」

③「as[so] long as」と「as[so] far as」の使い分け方

レクチャー10 「Sが～するために[できるように]」という「目的」表す接続詞。

(1)so that S+may[can/ will]+V[原形]～

(2)in order that S+may[can/ will]+V[原形]～

レクチャー11 「～するとすぐ…した」を表す構文。

(1)As soon as S+V[過去]～, S₁+V₂[過去]…

(2)On Ving～, S₁+V₂[過去]…

(3)S+had+□+p.p.～ ■ S₁+V₂[過去]…

レクチャー12 「so～that S+V…」と「such～that S+V…」。

(1)such ～ that S+V… 「Sはととても～なので…だ」

(2)so ～ that S+V… 「Sはととても～なので…だ」

レクチャー13 その他の頻出の接続詞。

(1)S+be動詞+such that S+V～ 「Sは大変なものなので～」

(2)
for fear (that) S+

{	will[would]	} +V[原形]～
	may[might]	
	should	

「～するといけないので(～しないように)」

- (3) unless S+V ~ 「もし～ないなら」 ≡ if + not
「～ない限り」 ≡ except that S+V ~
「～する場合を除いて」
- (4) once S+V ~ 「ひとたび[いったん]～すると」
- (5) while S+V ~
- (6) even if [though] S+V ~
- (7) 命令文+ 「…せよ」

{	and	S will V [願] ~	「…せよ。そうすれば～だろう」
	or (else)	S will V [願] ~	「…せよ。さもないと～だろう」
- (8) if S+V ~
- (9) 否定文 + because S+V ~ 「～だからといって」

第十一章 比較

レクチャー1 「原級比較(A+動詞+as ~ as B: AはBと同じくらい～だ)」で大切なこと」

- (1) 原級比較の否定は、「A+動詞+not so[as] ~ as B」。「AはBほど～ない」。
- (2) 「(not) as[so]+形容詞+a[an]+名詞+as …」の語順に注意せよ。
- (3) 原級比較を用いた重要表現。
- ① as many A as … / as much A as … 「…と同じだけ[同じ量]のA」
 - ② as many+A (複数名詞) 「(先行する名詞と)同数のA」
 - ③ 強調の as ~ as
 - ③ as+原級+as any ([other]+単数名詞) 「誰[どれ]にも劣らず…」
 - ④ as+原級+as ever 過去形(焔はlived) 「並外れた～」 「古今またとない～」
 - ⑤ not so much as do [願] ~ 「～さえしない」
 - ⑥ not so much A as B 「AというよりもむしろB」
 - ⑦ 倍数表現

レクチャー2 「比較級(A+動詞+～er than B: AはBより～だ)」で大切なこと。

- (1) than を用いたセット表現。
- ① 比較級+than usual 「いつもより」
 - ② 比較級+than A used to (do/be) 「昔(のA)より、ほど」

- ③比較級+than A (really) is 「実際(のA)より、ほど」
- ④比較級+than A looks 「見た目より、ほど」
- ⑤less than+形容詞 「少しも～ない」
- ⑥ A rather than B 「Bというより(も)むしろA」
=rather A than B
- ⑦know better than to do[願]～ 「～するほどバカではない」
- ⑧other than A 「A以外の(に)」
- ⑨than I (had) thought[expected] 「私が思っていた[予想していた]ほど、より」

(2)不規則の比較変化をする語。

(3)比較級を強調する副詞。

(4)than を用いない比較表現。

(5)比較級に「the」がつく4パターン。

- ①The+比較級 S+V～, the+比較級 S+V….

「～すればするほど(ますます)…」

- ② all } +the 比較級+ { for A
so much } { because of A
{ because S+V…

「A/…の故に(なので)それだけ～」

- ③ none the 比較級 + { for A
{ because of A
{ because S+V…

「A/…だからといって全く～ない」

- ④the 比較級 + of the two(+名詞). 「2者のうちより～な方」

(6)同一(人)物の中の異なった性質を比較する場合、どんなに短い単語でも、「more+原級」にする。

(7)比較の対象同士(つまり、比較される者同士)は、基本的に、同じ種類でなくてはならない。

(8)その他の比較級を用いた重要表現。

- ①否定文～+much[still/ even] less A

=let alone

「～ない。ましてAはなおさら～でない」

- ②know better than to do[願]～ 「～するほど馬鹿ではない」

know better 「(～するよりも)もっと思慮分別がある」

- ③「ますます～、だんだん～」

レクチャー3 クジラ構文。

- (1) 「クジラ構文」 って？
- (2) 基本ルール。
- (3) A is no more ~ than B
- (4) A is no more ~ than B is C
- (5) A is no less ~ than B
- (6) no more than と no less than.
- (7) not more than と not less than.
- (8) A is not less ~ than B
- (9) 応用編 「no+比較級+than A」 の構文。

レクチャー4 「最上級(A+動詞+(the)~est of/in…: Aは…のうちで最も~だ)」で大切なこと。

- (1) 最上級で用いる「~のうちで」の in と of に関して。
- (2) 最上級を強調する語句。
- (3) 「(the) least+原級(の形容詞・副詞)」で「最も~でない」。
- (4) 「the+最上級」が even の意味を含む場合がある。
- (5) 「one of the+最上級+A(複数名詞)」で「最も~なAのうちの1つ」という意味になる。
- (6) 最上級に近い意味を表す表現。

$$\textcircled{1} \quad \textcircled{S} + \textcircled{V} \left\{ \begin{array}{l} \text{as[so]~as} \\ \sim\text{er than} \end{array} \right\} \text{any+(other)+単数名詞.}$$

$$\textcircled{2} \quad \frac{\text{No+(other)+単数名詞}}{\textcircled{S}} + \textcircled{V} \left\{ \begin{array}{l} \text{as[so]~as} \\ \sim\text{er than} \end{array} \right\} + \text{A.}$$

③その他。

1.as~as any 「誰[どれ] にも劣らず~」

2.as~as ever+動詞の過去形 「並外れた~」

(7) 最上級を用いた慣用表現。

- ① the+序数+最上級 「□番目に~」
- ② 「OOぶりに」

【注意すべき比較表現】

第十二章 名詞・冠詞

名詞

- レクチャー1 「数えられる名詞(可算名詞)」と「数えられない名詞(不可算名詞)」の見分け方。
- レクチャー2 頻出の不可算名詞。
(1)ある種類全体を表わす集合名詞。
(2)物質名詞 物質の名で、一定の形や区切りがないもの。
(3)抽象名詞 (具体的な形を持たない抽象的な概念の名で、性質・状態・動作・感情・学問主義・運動・病気などを表す名詞)。
- レクチャー3 「形容詞+抽象名詞(物質名詞)」。
- レクチャー4 不可算名詞の数え方。
- レクチャー5 可算名詞と不可算名詞につく数量形容詞。
(1)可算名詞の複数形につくもの。
(2)不可算名詞につくもの。
(3)両方につくことができるもの。
- レクチャー6 その他の名詞と「数」に関する注意事項。
(1)複数形の「s」の位置を間違えやすい名詞。
(2)必ず複数形を用いなければならない表現。
① make friends with A 「Aと友達になる」
② shake hands with A 「Aと握手する」
③ be on ~ terms with A 「Aと~な間柄である」
④ in terms of A 1. 「Aの点で」
=in ~ terms 2. 「Aの言い方(言い回し・言葉)で」
⑤ come to terms 1. 「合意する」「仲直りする」
2. 「あきらめて従う」
⑥ change trains[planes] at~ 「~で列車[飛行機]を乗り換える」
⑦ change hands 「持ち主が変わる」
⑧ exchange seats with A 「Aと座席を交換する」
⑨ take turns (in/at) doing~ 「交替で~する」
⑩ put on airs 「気取る」
⑪ give one's best regards to A(人) 「Aによろしくと伝える」
⑫ take measures 「手段(策・措置)をとる」
⑬ change one's shirts 「シャツを着替える」

(3)可算名詞と不可算名詞の両方の意味をもつ名詞がある。

①物質名詞(不可算)と普通名詞(可算)の両方の意味を持つもの

②抽象名詞(不可算)と普通名詞(可算)の両方の意味を持つもの

③特に複数形で特別な意味を持つ名詞(分化複数)

(4)a people / peoples は「国民」「民族」。

(5)The police は単数名詞? 複数名詞?

(6)I received many kindnesses from him. は正しいか?

レクチャー7 「of+抽象名詞」は形容詞化する。

レクチャー8 「with+抽象名詞」は副詞化する。

レクチャー9 意味がまぎらわしい名詞。

(1)「客」。

(2)「料金」など。

(3)「働いている人」。

(4)「収入」。

(5)「旅」。

(6)「仕事」「職業」。

(7)「影」。

(8)「約束」。

(9)「ゆるし」。

(10)「道」。

(11)「サイン」。

(12)「習慣」。

(13)「移民」。

(14)「天気」「天候」。

(15)「景色」。

(16)「ゴミ」。

(17)「ひげ」。

(18)「手」「足」。

(19)「群れ」。

レクチャー10 意外な意味を持つ名詞。

レクチャー11 複数(形の)名詞の所有格のアポストロフィ(')の付け方。

冠詞

レクチャー1 a のついた名詞の特徴。

レクチャー2 the のついた名詞の特徴。

(1)「the+名詞」の特徴。

(2)初めて登場した名詞でも the が付くことがある。

レクチャー3 「There is[was]+名詞」構文と冠詞。
レクチャー4 「a」……「いくつかあるうちのひとつの～」
「the」…「唯一の～」

レクチャー5 「that+名詞」。

レクチャー6 不定冠詞(a[an])の特殊な用法。

- (1) 「ある～」 = a certain
- (2) 「いくらかの」 = some
- (3) 「同じ」 = one and the same
- (4) 「～につき」 = per
- (5) 「どれでも」「～というもの」 = any
- (6) 「a[an]+固有名詞」
 - ① 「～と(か)いう人」
 - ② 「～のような人」
 - ③ 「～家の人」
 - ④ 「～の作品・製品」

その名詞に a をつけるか an をつけるかについての注意点

レクチャー7 定冠詞(the)の特殊な用法。

- (1) 「～というもの」という意味で、その種族全体をひとまとめにして表す。
- (2) 「the+形容詞[分詞】」。
 - ① 「～な人々」という意味で「人を表す複数名詞化」することがある
 - ② 「～なもの、こと」という意味で「抽象名詞化」「集合名詞化」することがある
- (3) 「catch[take等]+A(人)+by+the+B(身体の一部):AのBをつかむ」。
- (4) 「by+the+A(単位を表す名詞)」で「～単位で」という意味になる。
- (5) 「the+(単数の)普通名詞」が抽象名詞化することがある。

レクチャー8 冠詞に関するその他のルール。

- (1) 交通[通信]手段を表す by の後ろの名詞は、必ず無冠詞にする。
- (2) 固有名詞と定冠詞。
 - ① 定冠詞のつく固有名詞
 - ② the のつかない固有名詞
 - ③ 「新聞」「雑誌」には the がつく
 - ④ 「団体名」にも the がつく

第十三章 代名詞

レクチャー1 名詞の繰り返しを避けるために用いられる「it」「one」「that」の使い分け。

(1)「it」と「one」。

- ①元の名詞との関係
- ②不可算名詞を受けられるか
- ③冠詞や形容詞、疑問詞(which)を前につけられるか

(2)「that」

- ①thatも、前出の名詞の反復を避けるために(「the+既出の(単数)名詞」の代用として)用いられるが、後ろに前置詞句や関係節などの限定語句を伴うのが普通。
- ②that which～ は関係代名詞の what と同じで「～するもの[こと]」という意味
- ③those who V～ は「～する人々」という意味。これは「those [the] people who V～」という構文の、people が省略されるた形

参考:the one と that の違い。

レクチャー2 不定代名詞の相関的用法。

- (1)one と the other は (2つあるうちの)「(どれか)1つ」と「(残った)一方」。
- (2)one と the others は (3つ以上あるうちの)「(どれか)1つ」と「残りの全部」。
- (3)oneとanother は (3つ以上あるうちの)「(どれか)1つ」と「one以外の別のどれか1つ」。
- (4)some と the others は (3つ以上あるうちの)「いくつか」と「残りの全部」。
- (5)some と others は (3つ以上あるうちの)「いくつか」と「別の不特定のいくつか」。

レクチャー3 代名詞 another の用法。

- (1)one と another は (3つ以上あるうちの)「(どれか)1つ」と「one以外の別のどれか1つ」。
- (2)one (名詞) after another は「(3つ以上のものが)次から次へと」「続々と」。
- (3)A is one thing and B is another.は「AとBは異なる」。
- (4)another+数詞(又はfew)+複数名詞(距離・期間など)は「あと(もう)～」。

- (5)「同類」という意味の another。
- (6)one another は「お互い」。
=each other
- (7)one+単数名詞+or another は「何らかの…」。
=one+単数名詞+or the other
=some+単数名詞+or other

レクチャー4 代名詞を用いた慣用表現。

- (1)some+単数名詞+or other は「何らかの〇〇」。
- (2)無冠詞で用いられる somebody(条件文では anybody)は「大物」「重要人物」、逆に nobody は「小物」「無名の人物」という意味になることがある。
また、無冠詞で使う something が「良いこと」「大したこと」「重要人物」「大物」といった意味になることがある。
- (3)Something is wrong with A は「Aはどこか具合が悪い[故障している]」。
=There is something wrong with A.
- (4)have nothing to do with A は「Aと全く関係がない」。
have much to do with A は「Aと大いに関係がある」。
have something to do with A は「Aと何らかの関係がある」。
have little to do with A は「Aとほとんど関係がない」。
- (5)make much of A は「Aを重視する、Aを尊重する」。
make little[light] of A は「①Aを軽視する ②Aをほとんど理解できない」。
make nothing of A は「①Aがさっぱり理解できない ②Aを何とも思わない」。
- (6)think much[highly] of A は「Aを重視する、Aを尊重する」。
think little[lightly] of A は「Aを軽視する、Aを苦しめない」。
think nothing of A は「Aを何とも思わない、苦しめない」。
- (7)see nothing of A は「①A(人)にさっぱり会わない ②A(物)がさっぱり分からない」。
see much[a lot] of A は「A(人)によく会う」。
see little of A は「A(人)にほとんど会わない」。
- (8)leave nothing to be desired は「全く非の打ちどころがない、申し分ない」。
leave little to be desired は「ほとんど非の打ちどころがない」。

leave something to be desired は「少々の遺憾な点がある」。

leave much to be desired は「遺憾な点が多い」。

(9)if anything

①どちらかと言えば [通例文頭で用いる]

②たとえあっても

(10)anything but は「決して～ない」。

(11)do nothing but √[願]～ は「～してばかりいる」。

(12)nothing but A は「Aにすぎない」。

=only

(13)for nothing

①「無料で」

②「無駄に」

(14)good for nothing は「役に立たない」。

good for something は「なんらかの役に立つ」。

(15)as such

①「そういうものとして、それなりに」

②[主に否定文で] 「それ自体で(は)」

③[主に否定文で] 「厳密な意味での、というような大層な代物
(しろもの)」

(16) A is not much of B は「Aは大したBではない」。

レクチャー5 その他の不定代名詞の用法。

(1)all。

(2)none。

(3) some と any。

(4)each。

(5)both。

(6)either。

(7)neither。

レクチャー6 指示代名詞・冠詞・不定代名詞・疑問代名詞を、所有格と並べて用いることはできない。

レクチャー7 「no/not～any」「no/not～either」の語順はあるが、その逆はない。

レクチャー8 再帰代名詞(oneself)の用法。

(1)動詞や前置詞の後ろで目的語になる。

①主語と目的語が同一(人)物の場合に、この再帰代名詞を用いる

②他動詞の目的語に oneself になると(つまり「他動詞

+oneself」となると)、その他動詞は自動詞的な意味になる

③「前置詞+oneself」という形で、決まり文句的によく問題で問

われるもの

④補語になることもある

(2)強意用法。

①S・O・Cの後において、その意味を強調する

②「be動詞+抽象名詞+itself」で「とても～だ」という意味になる

レクチャー9 疑問代名詞の用法に関して。

(1)疑問代名詞(who, what, which)は文の主要素(S・O・C)になれるのに対して、疑問副詞(when, where, why, how)は文の主要素(S・O・C)になれない点に注意。

(2)疑問代名詞は関係代名詞同様、後ろに不完全な文[構造]がくるのに対し、疑問副詞の後ろには関係副詞同様、後ろには完全な文[構造]がくる。

(3)「How～?」と「What～?」の使い分けがよく問われる。

①What do you think[make] of A? 「Aをどう思いますか」
=How do you like A?

②How do you spell A? 「Aをどう綴りますか?」
What do you call A? 「Aをなんと言いますか?」

③What do you say to doing～? 「～するのはどうですか」

④What is A like? 「Aはどんなものであるのか」
What does A look like? 「Aはどんなふうに見えるのか」

⑤その他

(4)What を用いた頻出の慣用表現。

①What ~ for?
1. 「なぜ、なんのために」
2. 「どんな目的で」

②What is A like? 「Aはどんなものであるのか」

③What if S+V～?
1. 「～ならどうなるだろうか」【提案・問いかけ・不安】
2. 「たとえ～だとしても、それがどうしたというのだ」

[修辞疑問]

④What is S all about? 「Sはいったい何(について)なのか」

⑤So what? 「だから何だというのだ」
「そんなことどうだっていいじゃないか」

⑥What's new? 「やあ、変わったことないかい」
「どうしてる」

⑦What do you say to A/ doing～? 「Aは／～するのはどうで

す?」【提案】

⑧What become of A? 「Aはどうなる」

レクチャー10 天候・時間・距離・漠然とした状況などの it に関して。

レクチャー11 it を用いた重要構文。

(1)It seems[appears] that S+V~. 「~のように見える、思われる」。

(2)It happened[chanced] that S+V~. 「たまたま~した」。

(3)It turned out that S+V~. 「結果として~だとわかる」。

As it[things] turned out, S+V~. 「結果として(結局のところ)、~だった」。

(4)It occurs to A(人) { that S+V~.
[strikes] to do[願]~.
疑問詞節.

「~がAの頭[心]に浮かぶ」。

(5)It dawn on A(人) that S+V~. 「~がAに次第にわかってくる」。

(6)It follows that S+V~. 「~ということになる」。

(7)what it is like to do[願]~. 「~するのがどういうものであるのか」。

(8)It is no use[good] doing~. 「~しても無駄だ」。

(9)It doesn't matter whether S+V~(or not). 「~かどうかは重要ではない」。

=It makes no difference whether S+V~(or not).

(10)It is no wonder that S+V~. 「~なのも無理はない」。

(11)It is not too much to say that S+V~. 「~だといっても過言ではない」。

(12)It goes without saying that S+V~. 「~なのは言うまでもない」。

(13)It won't[=will not] be long before S+V~. 「まもなく~するだろう」。

(14)「(金・犠牲が)かかる =cost」と「(時間・労力が)かかる =take」。

レクチャー12 形式目的語の it。

①「consider[think] O(名) C(形・分・名):OはCだと思う[みなす]」

②「make O(名) C(形・分・名):OをCにする」

③「find O(名) C(形・分・名):OはCだと思う[分かる]」

(1)see [to it] that S+V~ 「~するよう取り計らう、気をつ

- ける」。
- (2) take it for granted that S+V～「～するのを当然とみなす」。
- (3) make it a rule[habit] to do[原形]～「～するのを習慣にする」。
- (4) have it that S+V～「～だと言う」。
- (5) depend on it that S+V～「～するということを当てにする」。
- (6) take it that S+V～「～だと思う」。
- (7) owe it to A that S+V～「～する[した]のはAのおかげだ」。
owe it to A to do[原形]～「Aに対して～する義務を負っている」。

レクチャー 13 「There (V)+(S)」構文。

- (1) There be動詞+(S)(名). (S)がある[いる]
- (2) There 一般動詞+(S)(名).
- (3) There seem[appear] to be+(S)(名). (S)がある[いる]かのように見える[思える]
- ① There used to be+(S)(名). 「(昔)(S)があった」
- ② There is likely to be+(S)(名). 「(S)がある可能性がある」
- ③ There is said to be+(S)(名). 「(S)があると言われている」
- | | |
|------------|-----------|
| [thought] | [思われている] |
| [believed] | [信じられている] |
- (4) 「There (V)+(S)」構文の準動詞形。
- (5) There be動詞+(S)(名)+分詞～. ～している[される] (S)がいる
- (6) There is a rumor that S+V～. ～という噂がある
- (7) 「There be動詞+(S)(名)」を用いた慣用表現。
- ① There is no point[sense / use / good] (in) doing～.
=It is no use[good] doing～
=No point[sense] (in) doing
=What is the use of doing～?
「～しても無駄だ」
- ② There is no doing～.
=It is impossible to do[原形]～
「～できない」
- ③ There is nothing for it but to do[原形]～.
「～するより仕方がない」
- ④ There is no need to do[原形]～.
「～する必要はない」

- ⑤ There is no [little, some] doubt $\left\{ \begin{array}{l} \text{about A.} \\ \text{that S+V}\sim. \\ \text{if [whether] S+V}\sim. \end{array} \right.$
- 「A/～について全く疑問の余地がない」

第十四章 形容詞・副詞

形容詞

- レクチャー 1 形容詞と副詞の文中での働き [用法]。
 (1) 形容詞の働き [用法]。
 (2) 副詞の働き [用法]。
 (3) よくあるタイプの問題。
- レクチャー 2 意味の区別がつきにくい形容詞など。
- レクチャー 3 形容詞の限定用法と叙述用法。
 《もう一歩深く!!》
- レクチャー 4 用法が紛らわしい形容詞・副詞。
 (1) 「早い」「速い」
 (2) 「高い」「安い(低い)」
 (3) 「多い」「少ない」「大きい」「小さい」。
 (4) 「広い」「狭い」。
 (5) 「重い」。
 (6) 「似ている」。
 (7) 「できる」「できない」の意味を表す形容詞。
 (8) 「濃い」「薄い」。
 (9) ago と before 。
 (10) very と much。
 (11) 「まだ」。
 (12) 時を表す副詞と使用される時制。
 (13) 「近い」。
 (14) 「軽い」。
 (15) 「遠い」「離れている」。
 (16) 「〇〇ぶりに」。
 (17) 「ある～」。

- (18) 「きびしい」。
- (19) 「はずかしい」。
- (20) 「おちつかない」。
- (21) 「意外と」。
- (22) 「(高さが・幅が・長さが)…ある」の表現。

レクチャー5 「～ごとに(1回)」という意味の every がある。

レクチャー6 主語と形容詞。

- (1) 人を主語にできない形容詞(It is～to do[原形]…構文を使う場合が多い)。
- (2) 物を主語にできない形容詞(人の能力や感情を表す形容詞)。

レクチャー7 「far from A:全くAではない」と「free from A:Aがない」の区別の仕方。

- (1) far from A。
- (2) free from A。

レクチャー8 「ほとんど(大半)のA/Aのほとんど(大半)」。

- (1) 「(限定されていない)Aのほとんど」。
- (2) 「(限定された)Aのほとんど」。

レクチャー9 otherwise。

- (1) 「別の(他の)方法で、違ったふうに」。
- (2) 「その他の点で(は)」。

レクチャー10 可算名詞と不可算名詞につく数量形容詞。

- (1) 可算名詞の複数形につくもの。
- (2) 不可算名詞につくもの。
- (3) 両方につくことができるもの。

レクチャー11 「ほとんど～ない」と「滅多に～ない」。

- (1) hardly[scarcely]とrarely[seldom]の意味の違い。
- (2) 「hardly[scarcely] ever」は「滅多に～ない」。
- (3) 「hardly[scarcely] any」は名詞を否定し「hardly[scarcely] any+名詞」の形で「(その名詞が)ほとんど～ない」。

レクチャー12 「(a/the)+名詞+of」の形で一つの形容詞の働きをするもの。

レクチャー13 頻出! first関連のイディオム。

- (1) at first hand 「直接、じかに」
- (2) at first sight 1. 「一目で(の)」 2. 「一見したところでは」
- (3) for the first time 「初めて」
- (4) in the first place 「まず第一に」
 - =to begin[start] with
 - =first of all
 - =first and foremost

=firstly

(5)at first 「はじめのうち(は)」

=the first time

(6)first or last 「遅かれ早かれ」

(7)The first[last] time S+V~, S+V... 「はじめて[最後に]
~した時に…」

(8)from the first 「最初から」

(9)from first to last 「最初から最後まで、終始」

(10)This is the first time S have+p.p.~ 「Sが~するのは今回
がはじめてだ」

レクチャー 14 How soon。

レクチャー 15 副詞の「so」「as」「how」「too」の直後に冠詞の a はこれない。

レクチャー 16 「another+数詞(又はfew)+複数名詞(期間[距離]など)」で、another
が「あと(もう)~」という意味になる。

レクチャー 17 名詞と間違えやすい副詞。

レクチャー 18 -lyが付く形と付かない形で意味が異なる副詞。

レクチャー 19 副詞の enough(十分に) は必ず後から語句を修飾をする。

レクチャー 20 「-thing」「-body」「-one」で終わる複合形の不定代名詞を修飾する
ときは、形容詞は(一語でも)、必ずその後ろに置かれる。

レクチャー 21 数詞を含む形容詞には複数の「s」はつけない。

レクチャー 22 英文中での副詞の位置について。

(1)一般的な副詞の位置。

(2)日時の表記について。

(3)頻度を表す副詞の位置。

レクチャー 23 形容詞の順序。

(1)形容詞を重ねる場合の順序。

(2)all, both, half, such は、the(冠詞)やmy(所有格)やthis(指示代名詞)な
どの前に置かれる。

第十五章 否定・倒置・語順・強調

否定

レクチャー 1 強意の否定表現。

(1)「決して~ない」のいろいろな表現。

①never

=not~ever

《もう一步深く!!》

②on no account

=not ~ on any account

③in[under] no circumstances

=not ~ in[under] any circumstances

④in no sense[way/ respect]

=not ~ in any sense[way/ respect]

(2)「まったく[少しも]~ない」のいろいろな表現。

①not~at all

②far from~

③not a bit (of it)

④not~in the least

⑤anything but~

⑥by no means~

=not ~ by any means

⑦in no way

⑧no ~ whatever[whatsoever]

(3)「no~」は「少しも~でない」「決して~ない」。

=not~any

(4)「neither A nor B」は「AもBも両方~でない」。

「neither~」は「両方とも~ない」。

(5)cannot を強調する「for the life of A(人)」。

(6)強意の副詞としての simply。

レクチャー2 「far from A:全くAではない」と「free from A:Aがない」の区別の仕方。

レクチャー3 「ほとんど~ない」と「滅多に~ない」。

レクチャー4 否定語を含まない否定表現。

(1)anything but ~ 「全く~ない」

《もう一步深く!!》

(2)far from ~ 「全く~ない」

(3)free from ~ 「~がない」

(4)the last (person/thing等) to do[願]~/関係詞節~ 「決して~ない」

(5)fail to do[願]~ 1.「~しない」 2.「~できない」

(6)beyond ~ 「(範囲・限界が)~を超越している、~よりすぐれて
above ~ いる、~の及ばない」

(7) know better than A(名) / to do[彫]～ 「A／～するほどバカではない」

(8) remain to do[彫]～ 「いまだ～していない」
=be[have] yet to do[彫]～

《もう一歩深く!!》

(9) 修辞疑問

レクチャー5 部分否定。

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| (1) not+all | 「全て～というわけではない」 |
| (2) not+every | 「 " 」 |
| (3) not+both | 「両方～というわけではない」 |
| (4) not+always | 「いつも～というわけではない」 |
| (5) not+necessarily | 「必ずしも～というわけではない」 |
| (6) not+altogether | 「まったく～というわけではない」 |
| (7) not+entirely | 「 " 」 |
| (8) not+wholly | 「 " 」 |
| (9) not+quite | 「 " 」 |

レクチャー6 二重否定。

- (1) never[can't] do[彫]～ without doing… 「～すれば必ず…する」
- (2) never fail to do[彫]～ 「必ず～する」 [習慣的行為]
hardly[scarcely] fail to do[彫]～ 「必ずと言っていいほど～する」
- (3) don't fail to do[彫]～ 「必ず～する」 [一回限りの行為]

レクチャー7 その他の注意すべき否定の慣用表現。

- (1) cannot～too… 「～して[であって]…しすぎる[でありすぎる]ことはない」
- (2) not～until… 「…して(になって)はじめて～」
- (3) 「まもなく～するだろう」
① It will not be long before S+V～. 「まもなく～するだろう」
② It was not long before S+V～. 「まもなく～した」

倒置

レクチャー1 (準)否定の副詞の倒置。

レクチャー2 「Sもまた～しない」「Sもまた～する」。

- (1) 基本ルール。
(2) 引っかけ問題。

レクチャー3 その他の倒置の公式。

(1)一般の副詞(句)を強調するパターンの倒置。

① M+V+S

② M+S+V (主語が代名詞の場合)

(2)「S+V+C」のC(補語)を強調するパターンの倒置。

① C+V+S

② C+S+V (主語が代名詞の場合)

① S+V+so ~ that S+V…「とても～なので…する」

② S+be動詞+such that S+V…「Sは大変なものなので…する」

(3)O(目的語)を強調するパターン。

①「S+V+O」のOが文頭に飛び出すと全体は「O+S+V」の語順になる

②「S+V+O₁ O₂」のO₂が文頭に飛び出すと全体は「O₂+S+V+O₁」の語順になる

③「S+V+O+C」のOが文頭に飛び出すと全体は「O+S+V+C」の語順になる

(4)慣用的な「倒置」。

①仮定法のifが省略されると、条件節は疑問文と同じ語順になる

②文のバランスをとるための倒置

1. 「There+V (be動詞・一般動詞)+S」

2.比較の than や as[so]~as の後の倒置

語順

レクチャー1 間接疑問文の疑問詞節内の語順。

レクチャー2 「do you think[suppose/ believe….]」と「do you know」の語順が狙われることがある。

レクチャー3 副詞の「so」「as」「how(ever)」「too」の直後に、冠詞の「a」を置くことはできない。

レクチャー4 その他の語順のルール。

(1)

「 **形容詞(副詞・名詞)** + as +S+V」で「Sは～だけれど」。

(2)関係詞とその先行詞は離ればなれになることがある。

(3)「S+V+O+C」が「S+V+C+O」の語順になることがある。

(4)「S+V+O+M(副詞)」が「S+V+M(副詞)+O」の語順になること

(5)「同格節」と、それが修飾する名詞とが離ればなれになることが

レクチャー5 付加疑問文。

(1)作り方。

- ①肯定文の後には否定の付加疑問(isn't/doesn't/didn't等の短縮形を使う)をつける
- ②否定文の後には肯定の付加疑問をつける
- ③ただし命令文の場合は will you を文末につける
- ④Let's で始まる文の場合は shall we を文末につける

(2)注意点。

- ①文末の付加疑問の部分の主語は必ず人称代名詞にする
- ②There is[are]構文の場合は、thereを使う

(3)発音する際の注意点。

強調

レクチャー1 強調の副詞。

(1)very 以外の強調の副詞。

- ①「とても、大変に」… awfully, highly, extremely, terribly, really, simply
- ②「全く、すっかり」…dead(ly)
- ③「全く」…absolutely
- ④badly は「必要、病気、被害」などを意味する文脈で用いられると「ひどく、非常に」という意味になることがある

(2)疑問詞を強調する副詞(句)。

- ①疑問詞にeverをつけて「疑問詞+ever」とすると、その疑問詞の意味を強調できる
- ②疑問詞の後ろに以下のような語句をつけると、疑問詞が強調される
on earth・in the world・the hell・the devil

レクチャー2 強調の形容詞。

(1) single。

(2) possible(～でき得る限りの、この上ない)と imaginable(想像でき得る限りの)。

(3)形容詞の very。

レクチャー3 強調語としての助動詞 do[does/ did]。

レクチャー4 強調構文。

(1)強調構文とは。

(2)強調構文か？ 仮主語構文か？ その見極め方。

- ①It is と that の間に「形容詞・分詞」や「副詞(句・節)」が

- ある場合
 《もう一步深く!!》
 ②It is と that の間に「名詞(句・節)」がある場合
 ③注意すべきポイント

第十六章 省略・代用表現・共通構文[関係]・挿入・同格

省略

- レクチャー1 英語に置ける「省略」。
 1.慣用的な省略
 2.同じ形の反復(繰り返し)を避けるための省略
- レクチャー2 慣用的な省略 その一。副詞節内での「S(主語)+be動詞」の省略。
- レクチャー3 慣用的な省略 その二。疑問詞関連の省略。
 (1) How come S+V~?
 (2) What if S+V~?
 (3) Why not?
 (4) So what? 「だからなんだ[どうした]というのだ?」
 (5) Guess what! 「ねえねえ」「あのね」
- レクチャー4 慣用的な省略 その三。本来繰り返しを避けるための省略だが、慣用的に用いられるもの。
 (1) seldom[rarely]の後の if ever は「たとえあるにしても」と訳す。
 (2) if at all は「たとえ~だとしても」と訳す。
 (3) A, if not B は「BではないにしてもA」と訳す。
 (4) if not は「もしそうでないなら」と訳す。
 (5) if so は「もしそうなら、もしそれが事実なら」と訳す。
 (6) if any には、there is[are] が省略されている。
 ①little[few] if any は「たとえあるにしてもほとんど~ない」と訳す
 ②if any で「もしあれば」と訳す
 (7) if anything は「どちらかと言えば[言うところ]」と訳す。
- レクチャー5 慣用的な省略 その四。仮定法における「if」の省略。
- レクチャー6 慣用的な省略 その五。「要求」「提案」「命令」「決定」を表す動詞、形容詞の後のthat節内では「should+V[願]~」が用いられるが、この should は省略されることがある

レクチャー7 慣用的な省略 その六。その他。

(1)分詞構文における「being」「having been」は省略されることが多い。

(2)「前置詞(句)」の省略。

- ①動名詞の前の前置詞は省略されることがある
- ②size, age, color などの前の「of」は省略されることがある
- ③疑問詞で始まる名詞句(節)の前の「～に関して」という意味の「as to」「of」は省略されることがある

(3)「冠詞」の省略。

- ①(学校・教会・寝床などの)「建物・場所」が、その本来の目的で用いられる場合には、冠詞は省略される[つけない]
- ②交通[通信]手段を表す前置詞の by の後では、冠詞は省略される[つけない]
- ③「職務」や「地位」を表す名詞がC(補語)になる場合、冠詞は省略される
- ④「名詞+as+S+V:SはVだけれど」の構文では文頭の冠詞は省略される[つけない]

(4)「接続詞」などの省略。

- ① think, suppose, believe, know などの目的語になる節を導く接続詞のthat は、(口語などでは)よく省略される。省略されると「S+V S+V～」という構造になる。
- ② No wonder S+V～ 「～なのも不思議ではない[もったもだ]」
- ③ 「Now that S+V～(今はもう～なので)」の that は省略されることがある
- ④ 「so~that S+V…(とても～なので…)」の that は省略されることがある
- ⑤ 「so that S may[can/will] V～(Sが～するために)」の that は省略されることがある

(5)最上級やif節の前の「even」の省略。

(6)「関係代名詞(目的格・主格・補語格)」「関係副詞」の省略。

- ①関係代名詞の目的格は省略できる
- ②There is や Here is で始まる文では、主格(の関係代名詞)も省略できる
- ③関係代名詞節内が there is や here is で始まる文では、主格も省略できる
- ④「It is S who[that] V～」という形の強調構文では who

[that] は省略できる

⑤補語格も省略できる

⑥連鎖関係詞節をつくる関係代名詞は(主格でも)省略できる

⑦関係副詞に関して

1.先行詞が the place, the time, the reason の場合、関係副詞自身又はその先行詞を省略することができる

2.関係副詞の how は、先行詞(the way)、もしくは how 自身を必ず省略しなければならない。したがって「the way how S+V～」という形はない。

(7)「(主格の)関係代名詞+be動詞」の省略は省略できる。

(8)所有格の後に「場所」「建物」を表す名詞が来る場合、その名詞は省略できる。

(9)不定詞の to の省略。

①「help+0+to do[願]～(Oが～するのを手伝う)」の to は省略されることがある

②「All S can[have to] do is (to) do[願]～(Sにできるのは～することだけだ[Sは～しさえすればいい])」の to は省略されることがある

(10) To think (that) S+V～! 「～だなんて(本当に残念だ、バカだ)」。

(11)「the+比較級 S+V～, the+比較級 S+V…」の構文における省略。

①「the+比較級 S+V～, the+比較級 S+V…」の構文で「V」が be動詞や become の場合、その be動詞(become)は省略されることが多い

②慣用的な言い回しでは、the+比較級の後ろの「S+V」が省略されるものもある

(12)否定の原級比較や比較級の表現で、「as～」 「than～」が全て省略されている場合の補い方。

①動詞が現在完了ならば ☞ 「今ほど」を補ってみる

動詞が過去完了ならば ☞ 「そのときほど」を補ってみる

②その時制以外ならば ☞ 「これほど」を補ってみる

レクチャー 8 繰り返しを避けるための省略 その一。等位接続詞や比較の as, than の後ろ[右側]における省略。

レクチャー 9 繰り返しを避けるための省略 その二。代不定詞。

代用表現

- レクチャー that節の代用。
- ①本来 hope / be afraid の後ろに来るべき that節が肯定文であれば、(その肯定の that節は) so で言い換えることができる
 - ②本来 hope / be afraid の後ろに来るべきthat節が否定文であれば、(その否定の that節は) not で言い換えることができる

共通構文[関係]

- レクチャー 1 共通構文[関係]とは。
- レクチャー 2 「(a+b)x」型の共通関係。
- レクチャー 3 「x(a+b)」型の共通関係。

挿入

- レクチャー 1 挿入について。
- レクチャー 2 英文中にカンマやダッシュを用いて挿入される様々な語(句・節)の種類。
- (1)名詞(句・節)。
 - (2)関係詞節。
 - (3)副詞(句・節)。
 - ①分詞構文
 - ②「接続詞+S+V」
 - ③「前置詞+名詞」
 - ④イディオム的な副詞句や論理接続の副詞が挿入されていることもある
 - (4)主節。

同格

- レクチャー 1 同格とは。
- レクチャー 2 さまざまな同格のパターン その一。「名詞+名詞」の同格表現。
- レクチャー 3 さまざまな同格のパターン その二。「名詞+名詞」以外の同格表現。
- (1)「名詞+名詞節(that節・whether節[~かどうか]・疑問詞節など)」の同格。
 - (2)「A(名詞)+of+B(名詞): BというA」。
「A(名詞)+of+doing~ : ~するというA」。
 - (3)「名詞+to do[願形]~」。

- (4)「文+名詞」。
- (5)「副詞(句・節)+副詞(句・節)」。
- (6)「節+節」。

第十七章 前置詞

レクチャー1 前置詞の文中での働き[用法]。

- (1)前置詞とは。
- (2)「前置詞(+名詞)」の働き[用法]。
 - ①「前置詞+名詞」は文の主要素にはならない
 - ②「前置詞+名詞」の2つの働き[用法]
 - 1.(直)前の「名詞」を修飾する
 - 2.「名詞」以外を修飾する

レクチャー2 「前置詞+名詞」の例外的な働き[用法]。

- (1)「前置詞+名詞」が主語になることがある。
- (2)「前置詞+名詞」が補語になることがある。
- (3)「前置詞+名詞」が接続詞になることがある。
- ①by the time S+V～「Sが～する頃までには」

$$\text{②for fear S+} \left\{ \begin{array}{l} \text{will [would]} \\ \text{may [might]} \\ \text{should} \end{array} \right\} + \text{V} \sim$$

「Sが～するといけないので」「Sが～しないように」

- ③in case S+V～

- 1.「もし～なら」
- 2.「～の場合に備えて、～するといけないので」

(4)前置詞の後ろに「名詞(の仲間)」以外が来ることもある。

レクチャー3 文法問題では、前置詞はどのような点が狙われるのか。

- (1)それぞれの前置詞の基本的な意味やニュアンスの違いを問うもの。
- (2)紛らわしい用法や、意外[特殊]な意味・用法を問うもの。
- (3)前置詞を用いた慣用表現・イディオムを問うもの。

それぞれの前置詞の『核』のイメージ。

- (1)about
- (2)above
- (3)across

- (4)against
- (5)around
- (6)as
- (7)at
- (8)behind
- (9)below
- (10)beyond
- (11)by
- (12)for
- (13)from
- (14)in
- (15)into
- (16)of
- (17)off
- (18)on
- (19)out
- (20)out of
- (21)over
- (22)through
- (23)to
- (24)under
- (25)up
- (26)up to
- (27)with
- (28)within
- (29)without
- (30)「Aに関して(の)」のいろいろ。
- (31)「⇨」「⇩」といった記号で表せる前置詞。

前置詞に関するその他のポイント。

- 1.二重前置詞。
- 2.意味や用法の紛らわしい前置詞。
- 3.群前置詞。
 - (1)「理由・原因」を表すもの
 - (2)「目的」を表すもの
 - (3)「～にもかかわらず」という意味のもの
 - (4)「～は別として[除いて]」という意味のもの

- (5)「比較・比例」に関するもの
 - (6)「～の代わりに」という意味のもの
 - (7)その他
- 4.前置詞によって意味や用法が変化するイディオム。

第十八章 呼応

- レクチャー1 「呼応[一致]」とは。
- レクチャー2 形は複数形だが単数扱いになるもの。
(1)複数形の学科名・国名・書名などが1つのものをさす場合。
(2)時間・距離・金額・重量などを1つの(まとまった)単位としてみる場合。
- レクチャー3 部分を表す主語の呼応[一致]。
- レクチャー4 接続詞で結ばれた2つの主語の呼応。
(1)「A and B」の呼応。
(2)「A or B」などの呼応。
- レクチャー5 不定代名詞の呼応。
(1) each, every+単数名詞, either, neither。
(2) both。
(3) all。
- レクチャー6 その他の呼応。
(1)「many a + 単数名詞」。
(2)「more than one + 単数名詞」。
(3)「a number of A」と「the number of A」。
(4)「a pair[set・list など] of + 複数名詞」。
(5)集合名詞。
(6)動名詞、不定詞が主語の場合。
(7)「There be動詞[又は一般動詞] + ㊟」。
(8)「the + 形容詞[分詞]」。
(9)関係代名詞が主語[主格]の場合。

「呼応[一致]」の演習問題。

付属資料

1. 頻出会話表現のまとめ
2. 英語の諺・格言のまとめと演習
3. 頻出分詞形容詞一覧
4. 「頻出論理マーカー」のまとめと演習
5. 文法・語法頻出事項スーパーチェック